

保育園の「開き方」

まちづくりは保育園に

何ができるのか

子どもの生活・育ちの場であり、
コミュニティの拠点にもなり得るという視点から保育園を捉え、
どのように保育園が地域と社会的・空間的に関係をつくれれば(=「開けば」)、
子ども・保護者・保育士・地域全体が幸せになれるのか、
そのためにまちづくりや都市計画には何ができるのか、
みなさんと考えたいと思います。

シンポジウム

Symposium

2023年7月17日 月・祝 14:00~16:30

開催方法 ハイブリット開催

対面会場

シティラボ東京 (<https://citylabtokyo.jp>)
〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目1-1 東京スクエアガーデン6階

オンライン会場

Zoom (申し込みをされた方にアドレスをご連絡します)

申し込みは
こちらから



参加費 無料

定員 会場50名 / オンライン50名(申込み先着順)

【懇親会について】同会場にてシンポジウム終了後~18:30まで(参加費:一般1000円/学生無料)

【問い合わせ】cgoto@tcu.ac.jp (東京都市大学 後藤)

主催/保育園の「開き方」研究会
このシンポジウムは、
サントリー文化財団から助成を受けています。



後藤 智香子(ごとう ちかこ) / 東京都市大学 環境学部 准教授

2005年東京理科大学理工学部建築学科卒業。2007年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了。2011年同専攻博士課程修了・博士(工学)。柏の葉アーバンデザインセンターディレクター、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻特任助教、東京大学先端科学技術研究センター特任講師などを経て現職。専門は都市計画・まちづくりで、こども環境、郊外住宅地の維持再生、コミュニティの場づくりなどの研究をしています。著書に『コミュニティデザイン学：その仕組みづくりから考える』(共著、東京大学出版会、2016年)など。

プログラム

全体進行



近藤 早映(こんどう さえ)

三重大学
大学院工学研究科建築学専攻 准教授

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)、一級建築士、インテリアプランナー有資格。主な研究テーマは、各種地域計画(中心市街地活性化、公共空間整備のあり方や施設再編計画)、まちに育つ子育て施設の未来。近年は、「リビングラボ」の評価軸と共創スキームを実践しながら研究中。

研究会概要

共通の研究関心を持つ大学研究者を中心とした集まりで、これまで都市計画・まちづくりの観点から保育施設について調査・研究を行ってきました。研究開始当初は、保育施設を整備するにあたり地域住民の反対の声が出たケースを対象に、実態把握などの研究を進めてきましたが、現在はその本質的な解決に迫るための方法などを研究しています。

- ・後藤 智香子 / 東京都市大学 環境学部環境創生学科・准教授(研究会代表)
- ・近藤 早映 / 三重大学 大学院工学研究科 建築学専攻・准教授
- ・林 和真 / 東京都市大学 都市生活学部・准教授
- ・三木 裕子 / 東京都市大学 大学院環境情報学研究所・博士課程
- ・辻 麻里子 / 市民団体 宮前まち倶楽部
- ・金 銀真 / 東洋大学 地域活性化研究所・客員研究員
- ・小泉 秀樹 / 東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻・教授

事例紹介 / 話題提供

保育園での取り組み紹介



辻 陽一郎(つじ よういちろう)

明日葉保育園(横浜市)

ソシオークホールディングス株式会社 広報マーケティング部 部長。慶應大学卒業後、ヤフー、日本国際ワークキャンプセンター、日本NPOセンターを経て現職。個人では、Npo・ボランティア専門のポータルメディア「Nponews」を運営。NPOの広報コンサルティングなども行う。二児の父。保育士。



酒井 咲帆(さかい さきほ)

いふくまち保育園 / ごしょがだに保育園(福岡市)

写真家、株式会社アルバス 代表、いふくまち保育園・ごしょがだに保育園 園長、一般社団法人福祉とデザイン 代表理事、古小島公園愛護会 会長。2009年まで九州大学子どもプロジェクトの一員として「子どもの感性」をテーマに居場所づくりを行う。2009年4月に写真館「ALBUS(株式会社アルバス)」を福岡市中央区警固に立ち上げ、写真撮影・企画・編集・デザインなどを仕事にしながら、まちづくりを中心に活動の幅を広げていく。2018年に福岡市中央区に「いふくまち保育園」を開園、2021年同区「ごしょがだに保育園」を開園し、隣接する公園を整備、運営しながら、ひらかれた場所づくりを実践している。2児の母。

まちづくりプランナーの視点



安富 啓(やすとみ けい)

(株)石塚計画デザイン事務所 代表取締役(共同代表)、札幌事務所長

2002年北海道大学大学院都市環境工学専攻修了(建築史意匠学)。都市計画コンサルタント。札幌を拠点に、主に道内・首都圏の都市計画実務、行政計画の策定支援や地域活動のコーディネートなどの現場実務に従事する。総務省・地域力創造アドバイザー、日本都市計画学会・学会誌「都市計画」編集委員、早稲田大学招聘講師、東北工業大学非常勤講師、名古屋市立大学非常勤講師を務める。著書に「まちづくり仕組み図鑑ービジネスを生む「地元ぐらし」のスーマー」(共著、日経BP、2022年)がある。

子ども学の視点



宮田 まり子(みやた まりこ)

白梅学園大学 子ども学部 准教授

白梅学園大学子ども学部及び同大学大学院子ども学研究科准教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。専門は保育学で、幼稚園や保育所等での観察や参加を通して、子どもの遊び、園内外の保育環境や保育者の専門性に関する研究を行っています。園生活の中で、子どもたちが物や人と「じっくり」「存分に」関わり、遊びを広げていく姿から、人と環境の結びつきやその在り方について考えています。近著に『園庭を豊かな育ちの場に：質向上のためのヒントと事例』(共著、ひかりのくに、2019)、『ICTを使って保育を豊かに：ワクワクがにつながる&広がる28の実践』(共編著、中央法規、2022)などがあります。

建築計画学の視点



佐藤 将之(さとう まさゆき)

早稲田大学人間科学学術院 教授

1999年新潟大学工学部建設学科卒業、2004年東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了、博士(工学)。江戸東京博物館委嘱子ども居場所づくりコーディネーター、湘北短期大学、日本大学生産工学部、東京大学大学院教育学研究科非常勤講師等を経て現職。環境行動研究を中心とした都市や建築の計画が専門。単著「思いと環境をつなぐ保育の空間デザイン-心を育てる保育環境(小学館)」で2020年度こども環境学会 論文・著作奨励賞を受賞。まちの居場所に関する研究も続け、「まちの居場所(東洋書店)」(共著、2010年)や「まちづくり仕組み図鑑」(共著、日経BP、2022年)がある。

ディスカッション

- ・ 上記登壇者
- ・ 後藤 智香子
- ・ 近藤 早映